

多摩デポ通信 第46号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2018年4月25日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三二・一八

●HP <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

通常総会及び記念講演会

へのお誘い

—新たなスタートとして

理事長 座間直壯

多摩デポは発足以来11年目を迎えます。当初を顧みると都立図書館の大量廃棄問題から端を発し、多摩地域の図書館の現状を見る中で、「本を捨てない！」(津野海太郎顧問の講演「本を捨てるな！」より)を念頭に活動をすすめてきました。多摩地域の図書館だけでも年間に約50万冊の除籍本が出る現状の中で、最低でもラ

スト2冊の本を残し求める利用者に繋げていきたいという想いが原動力となり活動が続いてきました。

共同保存図書館の実態は、いまだ実現していませんが、多摩地域の各図書館の資料保存に対する取組みが次第に高まっていることを実感しています。(株)カーリルの共同研究による「多摩地域公共図書館所蔵確認システム」(TAMALAS)の開発が順調に進捗し、ISBN付きの図書についてはほぼ出来上がり、一昨年から多摩地域の各ブロックを単位に、システムの説明会を行ってきました。説明会が未実施

多摩デポ総会と記念講演に参加を！

日時：5月20日(日) 午後2時～4時40分

会場：国分寺労政会館 第3会議室 (3階)

国分寺駅南口5分 国分寺労政会館 ☎：042-323-8515

午後2時～3時 2018年度通常総会

3時20分～4時40分 記念講演

「図書館づくりの現況から『保存』を考える」

講演：塩見昇氏 (前日本図書館協会理事長)

—場所を移して5時から懇親会

のところは西多摩地域と旧北多摩地域の一部のみとなりました。

これまで各図書館の除籍作業は、自館のラスト1冊はコンピュータに表示されますが、他館の状況まで調べるには都立図書館の統合検索に一冊ずつチェックをかけて確認しなければなりませんでした。TAMALASでは、一冊ずつの検索はほぼ瞬時に結果を表示し、ラスト1、2冊が見つかる特別な音と表示で知らせてくれます。また、除籍予定が大量の場合には、Excelで作成した除籍予定図書リストをシステムに読み込ませるだけで、リストの該当の欄にラスト1、2冊が表示されます。これにより各図書館での除籍予定資料が多摩地域でどんな所蔵状況を把握できる仕組みが出来上がったといえます。

現在は、ISBNなしの図書についても同定(同一図書と確定する)作業の難しさを克服して、何とか同様な手順で判断出来るように研究を重ねています。

今後は、自館では除籍予定だが多摩地域全体ではラスト1、2冊の希少な図書を実際にどのようなように長く保存していくかの課題を解決しなければなりません。多摩地域の実情を見ると、書庫に余裕のある図書館はほとんどなく、どの館もギリギリのスペースでかなりの工夫を重ねながら、何とか一冊でも多くの蔵書を維持し、利用者に提供しようと努力しています。その姿に触れるたびに課題解決の糸口を探し出さねばと痛感しているところです。

今年度の計画では、バーチャル保存図書館をさらに発展させ、リアル共同保存図書館をどのように実現さ

せるかを、新たに模索していく年にしたいと考えています。この事業には多くの方々のご理解とご支援、ご協力を賜らなければなりません。新たな挑戦に、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、恒例の総会記念講演会ですが、今年度は、永年大阪教育大学などで司書の養成に携わり、2005年から8年間は日本図書館協会の理事長として日本の公共図書館や学校図書館の振興に寄与されてこられた、塩見昇氏をお招きしてお話をお聞きする予定です。

『市民の図書館』(日本図書館協会1970年刊)が発表され、公共図書館はそれまでの殻を破り、大きく変わりました。その後「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成24年12月19日文科科学省告示第172号)などが出しましたが、全

体としては所蔵資料の保存や除籍に関する成果が見られないまま今日に至っているように思います。今後、図書館はどのような視点で資料の保存や除籍と向きあい、貴重な文化遺産を引き継いでいけばよいのかを考えなければなりません。また、都道府県立図書館の資料保存に関する図書館協力の在り方など、現状をどのように捉え、どの様な方向に進むべきなのか、塩見氏の図書館の振興と資料保存に関する考え、想いを大局的見地からお話しいただく予定です。

講演会は会員以外の方でも聞いていただけます。誘いあわせてご参加ください。

会員の皆様、総会にお集まりください。
もしくは委任状の提出をお願いします

第32回多摩テポ講座
食の文化ライブラリーの
見学と、経験を聞く会
—実施報告

3月19日(月)、料理・食
材・食生活から外食産業ま
で、食文化の資料に特化し
て学術書、エッセイ、雑誌
を含めて幅広く集め公開し
ている「食の文化ライブラ
リー」を見学に行く講座を
実施しました。

味の素(株)の社会貢献
活動の一環として、同社創
立80周年の1989年に設
立されています。組織とし
ては公益財団法人として、
図書館運営以外に、毎年
「食の文化フォーラム」の
開催や季刊雑誌の発行など
も行っていきます。

開架フロア(独自の詳細
分類でわかりやすく展開し、
話題に対応してフロアのあ
ちこちでポップ付きで展

示)だけでなく、ミニ展示
室、閉架書庫や、古典籍・
浮世絵等を納めた収蔵庫ま
で案内され、別室で図書館
長も加わり、運営にもかか
わる説明や課題、利用の手
ごたえまで話していただき
ました。『図書館雑誌』に「れ
ふあれんす三題噺」の連載
があります。2013年
8月号にこの館の事例を書
かれていた草野美保氏が案
内役でした。

参加者は会員・非会員合
わせ13名。現役の公共図書
館員、OB・OGが主でし
た。仕事でいつも扱ってい
る、市民にもなじみ深い分
野の図書、雑誌が長く丁寧
に扱われ、利用に供されて
いることに自然に微笑み、
展示工夫などに感心し、質
問も出た3時間でした。
今年度は事務局では、専
門図書館の活動を調べてき
ました。公共図書館で普通
に収集はしていますが、保存

場所の狭さの下では長期保
存の対象から外されがちで、
相対的には保存必要性の認
識が弱い(と思われる)。「実
用書」をどう考えたらいい
のだろうか?保存・活用の在
り方の研究をしよう、と。
その流れの上での今回の企
画でした。またご期待くだ
さい。



「食の文化ライブラリ
ー」を見学して

大場美佳

今回訪れた食の文化ライ
ブラリーは1989年(平

成元年)に開館。食文化に
関する単行本、雑誌、学術
論文、映像資料などが利用
できる「食の専門図書館」
です。

最初に職員さんに案内し
ていただきながら、館内各
コーナーを見てまわりまし
た。まず目に入ったのは食
に関するミニ展示。西郷隆
盛の食に関する展示など、
6つの展示がありました。

なんとこの展示、週替わり
で展示替えを行っているそ
うです。手作りのPOPに
書かれているのがどれも興
味を引くものばかりでした。

館内資料は独自の食文化
に特化した分類に基づいて
細かく分類分けされており、
食に関する新しいキーワー
ドが増えると随時、追加し
ているそうです。

次は地下の書庫へ。私が
特に目を引いたのは雑誌
『料理之友』で、こちらは
大正2年創刊。食の文化ラ

イブラリーでは大正3年から所蔵しているとのこと。案内してくださった職員さんの、「データベースは便利な反面、実物を見ないとその時代背景は感じられない。実際に手に取ることで時代背景が分かることも。実際の資料を見て欲しい。」という言葉が印象的でした。言葉通り、実際に雑誌を見てみると戦前の資料は紙やインクも薄く、その時代背景が色濃く反映されていてとても興味深かったです。実際に現物に触れる大きさを痛感しました。

最後に食文化展示室へ。江戸時代の食文化が描かれている錦絵が展示されていました。錦絵に描かれている花見弁当などの食品サンプルが置かれていてビジュアル資料として楽しませていただきました。

私たちの身近にある「食」。専門図書館という入りづ



らいイメージがありました。が、一般の利用者にも分かりやすい分類やレシピ集・食品サンプルなど見て楽しめるビジュアル資料の数々。館内にはさまざまな工夫がされており館内をまわっていても楽しく、あつという間の見学でした。

(稲城市立中央図書館)

つくりこまれてきた

蔵書の力

田口靖子

「味の素に古いお料理の本があつてね。整理に行ったら底冷えでもものすごく寒かった」という、古い友人の昔話を思い出したのがきっかけで参加しました。

「食の文化ライブラリー」は都営浅草線高輪台駅から徒歩5分ほど、「味の素高輪研修センター」内の一角にあります。1階の入口を入ると左手に書架が並び、食をテーマにした資料の世界が広がります。蔵書数約4万冊。NDCによらず独自分類を採用し、「アスリートと食」、食に関するエッセイや漫画のコーナーなど、時代とともに新たな項目を展開しています。書架の側板を利用したミニ展示や古き良き文献から今の食文化を見直す「雑誌のバックナン

バー」の展示コーナーが印象的でした。

今回は書庫も案内していただき、明治・大正期のグルメ雑誌『食道楽』と『料理之友』を拝見しました。私が手にしたのは『料理之友』の夏の号で、「涼しそうな家庭の晩餐」の献立が色刷りの挿絵で描かれています。『料理之友』の表紙画像と目次データが同センターのホームページで公開されていて、当時のちよつとおしゃれな奥様が参考にした家庭の食卓風景をうかがうことができます。

また同センターでは、食をテーマにした錦絵をコレクションしており、2階の「食文化展示室」で展示を行っています。葛飾北斎の「東海道五十三次」の錦絵を添えて街道筋の名物を紹介した地図パネル、天ぷらや初ガツオを楽しむ美人画や役者絵の解説、江戸時代

の文献から再現した「花見弁当」「幕の内弁当」の食品サンプルの作成など、資料に基づいた食文化の理解と普及に力を入れていることがわかります。同じフロアに味の素の歴史を紹介する「食と暮らしの小さな博物館」もあり、江戸から現代までの食文化が総合的に理解できる施設になっています。

職員の方の丁寧なご説明で、現在地が昔、創業者鈴木三郎助の邸宅跡であることもわかりました。かなり立派な木造建築だったそうで、私の古い知り合いの司書が通ったのもここなのでしよう。書庫を見学した際、『万宝料理秘密箱』など古典籍の表紙が垣間見えまして。二十数年も経って、その資料に出会ったのですから何とも気の長い話です。それと同時に、「食の文化ライブラリー」の資料収集、

蓄積とそれを提供するシステム構築の積み重ねの日々が、真に伝わってきたように思います。何を選び、何を残すかという選択は時としたいへん辛いものがありますが、見学を終えても一度書架をゆっくりと歩いたとき、食文化に関するテーマの発想や着想が湧いてきて、長年にわたりつくりこまれてきた蔵書の力を感しました。

「私たちは一般の方と研究者の方の両方が楽しめるようにバランスを考えながら、常に仕事をしています」という職員の方のお話がとても印象に残っています。貸出も可能な親しみのある専門図書館「食のライブラリー」、またゆっくりと時間をとって訪れてみたいと思っています。

(都内公共図書館)



(株)カーリルとの共同研究 定例会報告 その14

前回、多摩地域でのTAMALIAS 説明会、また「TAMALIAS 一括処理システム」に関連する動きをお伝えしましたが、その後の経過を伝えます。

「TAMALIAS 一括処理システム」は公開に向け、活用規定を整備し、現在、活

用マニュアルの作成と最終的な実証実験をしているところです。

現在ホームページで公開しているTAMALIASの方は、除籍候補資料のISBN番号を一冊ごとに入力して多摩地域での所蔵状況を表示する、いわば個別処理システムと言えます。それに対し「TAMALIAS 一括処理システム」は、大量の除籍候補資料を一括して検索できるシステムです。

ISBN番号が入ったExcelファイルであれば使うことができます。「TAMALIAS 一括処理システム」にアップロードしてそのまま待てば、すべてのデータを検索し、その結果をExcelシート of 最終列に表示して戻してくださるようになっていきます。所蔵自治体数、自治体名、都立図書館の所蔵の有無、また一括処理中に何らかの理由でつながらなかった図書

館の自治体名を表示します。ですから大量の除籍候補資料を自動的に検索することができ、その結果を除籍判断の参考データとして使うことができます。

多摩デポホームページからアクセスしますが、個別処理システムと違いこの「一括処理システム」は、自治体ごとの利用申請を必要とし、多摩デポからIDとパスワードを発行して使ってもらうようにします。今後、東京都市町村立図書館長協議会および各自治体の図書館に紹介し、ぜひ多くの図書館で使ってもらいたいと考えています。

(株) カーリルとの共同研究の次の課題は、ISBNなし資料の同定識別のシステムです。ISBNがある資料は、TAMALASで既にある程度の対応が可能です。ISBNなし資料は、個々の図書館が持っている書誌情報がまち

まちで（例えば、都立図書館で統合検索した場合の検索結果でもわかるように）同じ本とみなせるのかそうでないのか、正確な同定が大変難しいのが現状です。その同定のための研究を続けています。

踏み込めるところまでは機械的な同定をしたい。そしてそのシステムを公開したい。しかしその先に、ISBNなし資料の中で各館で持ちきれない資料だけでも、一カ所に集めて共同保存をすることができないかと考えています。現物を集めることで正確な同定ができるようになりそうです。あるいは最も適切な書誌データを判断することができるとは

ずです。それはISBNなし資料の同定研究をその先に進める一里塚であり、同時にリアルな共同保存の第一歩にならないかとも考えています。

▼会員の堀内寛雄さんが『図書館雑誌』3月号の巻頭言「窓」で、「生き返った『箱詰め』の本のこと」と題し、亡くなられた研究者の蔵書の生かし方について、図書館人の立場から書いています。ぜひお読みください。

この中で、昨年の総会記念講演会の永江朗氏の「図書館に寄贈された蔵書が書庫奥で箱詰めのまま死蔵されるのに比べ、古書市場に流すこと」の意義に触れています。永江氏講演のブックレット化を準備中。ご期待を！

▼東久留米市立中央図書館で5月19、20日に行われる「図書館フェス2018」の「ひとハコ図書館」の展示に事務局有志で参加します。

▼書いていた読売新聞の「たま手箱」コラム欄が3月で終了となりました。いい執筆の機会でしたが残念！

★会の現勢

2018年4月1日

現在

●正会員

(個人会員85名)
(団体会員2団体)

●賛助会員

(個人45名)
(団体1団体)

会の活動は皆様の会費・ご寄付で支えられています。新年度用の振込用紙を同封しました。よろしくお願ひします。

●年会費

正会員 (個人・団体) 五千元
賛助会員一口 二千元
(個人一口団体五口以上)